

## 2月12日(水)開催 多面的機能支払交付金優良事例発表会・技術研修会 において、「延方・水の郷を育てる会」が事例発表しました。

農業・農村は、県土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成などの「多面的機能」を有しています。この「多面的機能」の維持・発揮を支える地域の共同活動に対して交付金を交付する「多面的機能支払交付金」という制度があります。

県では、毎年度、この交付金を活用して地域の多面的機能の維持・増進に取り組む活動組織向けに、優良な活動を行っている活動組織による事例発表会と、外部講師を招き、日々の活動のヒントとなるような情報を提供する技術研修会を開催しています。

今年度は、2月12日(水)に、ザ・ヒロサワ・シティ会館(旧茨城県立県民文化センター)において、第十二回 茨城県美しい水土里づくり優良活動表彰で県知事賞を受賞した、島地区農地・水・環境保全会(水戸市)と、茨城県土地改良事業団体連合会長賞を受賞した、延方・水の郷を育てる会(潮来市)による事例発表と、(一社)農山漁村文化協会関東甲信越の大池支部長より、「グラウンドカバープランツの雑草管理」についてご紹介いただきました。



事例発表をした延方・水の郷を育てる会は、当事務所管内の潮来市で活動する組織で、アガパンサスを中心に、四季折々色とりどりの花の植栽に精力的に取り組まれています。

活動のうへでは、「花の輪」・「情報の環」・「人の和」という3つの「わ」を大事にしながら活動しており、これらの「わ」が相互に作用しあうことにより、地域全体で地域の環境美化に対する意識が向上したことで、育てる会の活動をきっかけとして、地元の「道の駅潮いたこ」のボランティアの方々などによる植栽活動も始まり、潮来 IC まで続く約1 km のフラワーロードが完成したそうです。



今年度は、国交省の「日本風景街道」に県内で2か所目に指定された潮来市の観光名所「水郷潮来あやめ園」を中心とした「いたこあやめ花街道」が、2年連続で関東優秀活動賞を受賞したほか、今年度は東京オリンピックの開催が予定されており、鹿嶋市がサッカー競技の会場となるなど、鹿行地域への人の流れが活発になることが予想されるなか、ますます本地域の活性化が期待されます。

発表者の中野会長は、締めくくりに、「育てる会から広がったフラワーロードも、あやめ園に繋がる道として綺麗な花を咲かせ、地域を盛り上げていきたい。」と仰っていました。

続いて行われた研修会では、「グランドカバープランツの雑草管理」について、農文協がこれまでに取材した全国の事例を基にご紹介いただきました。

多面的機能支払交付金による活動は、「草刈りで始まり草刈りで終わる」と言っても過言ではないほど、畦畔や水路法面などの草刈りの作業は、欠かせないものとなっています。しかしながら、農業集落の高齢化や過疎化、混住化、担い手への農地集積など様々な構造変化がある中、草刈りなどの活動への参加者が減り、少人数で対応しなければならない組織が多くなっている今日では、雑草への省力化対策が重要になってきます。

その対策の1つとして、植物の植栽による雑草対策である「グラウンド（地面）カバー（覆う）プランツ（植物）による雑草管理」は有効で、グランドカバープランツが定着するまでは管理の手間がかかるものの、定着後は草刈りが不要になることもあるほど効果を発揮するそうです。

また、グラウンドカバープランツの中には、ヒメイワダレソウなど綺麗な花を咲かせる品種もあるため、雑草対策だけでなく、景観形成にもなるという利点があります。

更には、維持管理を適切に行うことは、担い手が引き受けやすい農地を作ることにもなるため、「究極の担い手対策」とも言えます。



↑ 研修会の様子